

大島 茂、中村哲也、並木伸、岡田英理子、山崎元美、金井隆典、渡辺守	慢性大腸炎発症におけるサイトカインIL-7の役割とその産生調節機構.	第34回日本免疫学会	札幌	2004年12月1日
戸塚輝治、金井隆典、蒔田新、河村貴広、飯山稜一、秋葉久弥、岩井秀之、東 みゆき、八木田秀雄、奥村 康、CHEN Lieping、渡辺 守	炎症性腸疾患および慢性大腸炎モデルにおけるCo-stimulatory B7-H1分子の関与.	第34回日本免疫学会	札幌	2004年12月2日
並木 伸、中村哲也、大島茂、山崎元美、金井隆典、渡辺守	Interferon Regulatory Factor (IRF)-1によるIFN- $\gamma$ 依存性LMP7発現調節機構.	第34回日本免疫学会	札幌	2004年12月2日
中村哲也、並木伸、関根裕子、大島 茂、山崎元美、岡本隆一、土屋輝一郎、金井隆典、渡辺 守	腸管上皮におけるIRF-1標的遺伝子の網羅的解析と免疫プロテオソーム発現に対するIRF-1分子機能.	第12回浜名湖シンポジウム	浜松	2004年12月23日
鈴木飛鳥、光山慶一、富安信夫、増田淳也、高木孝輔、古賀浩徳、豊永 純、佐田通夫	プロピオン酸菌による乳性発酵物の炎症性腸疾患患者に対する有用性.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月21-23日
安藤 朗、小川敦弘、北村憲一、辻川知之、佐々木雅也、藤山佳秀、光山慶一	白血球除去療法(LCAP)の全身性サイトカインレスポンスと活性化血小板マーカーに対する影響.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月21-23日
光山慶一、鈴木飛鳥、富安信夫、高木孝輔、増田淳也、豊永純、佐田通夫、松本 敏	白血球除去療法のサイトカインシグナル伝達系に及ぼす影響	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月21-23日
居石哲治、富安信夫、光山慶一	潰瘍性大腸炎に合併した血栓症の検討.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月21-23日
光山慶一、鈴木飛鳥、佐田通夫	新しい分子標的薬・JNK 阻害剤による炎症性腸疾患治療の可能性.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月21-23日
Hanai H, Kanauchi O, Mitsuyama K, Andoh A, Fujiyama Y, Sata M, Bamba T, Araki Y, Takeuchi K, Iida T	Beneficial effects of prebiotics germinated barley foodstuff in the long term treatment of ulcerative colitis: a multicentre open control study.	The 2004 Annual Meeting of the British Society of Gastroenterology	Glasgow, UK	2004年5月21-24日

松本 敏、今岡明美、原 妙子、光山慶一、瀬戸山裕美、島龍一郎、伊藤喜久治、梅崎良則	Bacteroides および Lactobacillusの定着が正常時及び病態時のマウス腸粘膜免疫応答に与える影響について.	第8回腸内細菌学会	東京	2004年6月3-4日
光山慶一、鈴木飛鳥、富安信夫、増田淳也、高木孝輔、豊永純、佐田通夫	炎症性腸疾患に対する JNK 選択的阻害剤の治療作用.	第41回日本消化器免疫学会総会	大津	2004年7月15-16日
鈴木飛鳥、光山慶一、丹羽幹夫、富安信夫、豊永純、佐田通夫	クローン病患者血清と特異的に反応するエピトープペプチド.	DDW-Japan (第46回日本消化器病学会大会)	福岡	2004年10月21-23日
富安信夫、光山慶一、増田淳也、鈴木飛鳥、高木孝輔、豊永純、佐田通夫	ラット実験腸炎モデルにおける顆粒球吸着療法 (GCAP) の効果.	DDW-Japan (第46回日本消化器病学会大会)	福岡	2004年10月21-23日
竹田津英稔、光山慶一、松本敏、増田淳也、鈴木飛鳥、富安信夫、高木孝輔、豊永純、佐田通夫	クローン病モデルマウス SAMPI/Yitマウスにおける IL-5 の役割.	DDW-Japan (第46回日本消化器病学会大会)	福岡	2004年10月21-23日
松本 敏、光山慶一、左古知行	Lactobacillus casei シロタ株の腸炎抑制機構の解析: IL6 産生抑制細胞壁成分の解析.	第34回日本免疫学会総会 学術集会	札幌	2004年12月1-3日
竹田津英稔、光山慶一、松本敏、佐田通夫	クローン病モデルマウス SAMPI/Yitマウスにおける IL-5 の役割.	第34回日本免疫学会総会 学術集会	札幌	2004年12月1-3日
光山慶一	Role of the mucosal immunity and epithelial restitution in IBD : Which plays the leading part for future therapies.	第1回日本炎症性腸疾患研究会学術集会	東京	2004年12月4日
Suzuki Y, Yoshimura N, Saniabadi A, Saito Y	A prospective study of selective neutrophil and monocyte adsorptive apheresis as a first line treatment for steroid naive patients with active ulcerative colitis: a major step toward steroid free treatment of ulcerative colitis.	DDW 2004	New Orleans	2004年5月19日
Suzuki Y, Yoshimura N, Saniabadi A, Saito Y	A prospective to assess efficacy of selective neutrophil and monocyte adsorptive apheresis as a first line treatment in steroid naive patients with active ulcerative colitis: a step toward steroid free treatment of ulcerative colitis.	12th United European Gastroenterology Week	Prague	2004年9月20日
Isono A, Katsuno T, Morita H, Sato N, Seo G, Saito Y, Suzuki Y	Clostridium butyricum Culture Supernatant Downregulates Toll-like receptor 4 mRNA Level in Human Colonic Epithelial Cells.	DDW 2004		2004年5月19日

磯野貴史、勝野達郎、布留川潔、畠山一樹、森田秀和、徳政敦子、吉村直樹、時田健二、鈴木康夫、齋藤康	3菌種配合プロバイオテックスによるヒト腸管粘膜上皮細胞toll-like receptor 4 発現制御.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月22日
畠山一樹、吉村直樹、磯野貴史、布留川潔、森田秀和、徳政敦子、時田健二、勝野達郎、鈴木康夫、齋藤康	$\omega$ -3系脂肪酸含有半消化態栄養剤による活動期クローン病緩解導入の検討.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月23日
吉村直樹、鈴木康夫、畠山一樹、磯野貴史、布留川潔、森田秀和、徳政敦子、時田健二、勝野達郎、齋藤康	潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着除去療法再施行成績の検討.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月21日
磯野貴史、畠山一樹、吉村直樹、布留川潔、佐藤徹、加藤靖隆、峯崇子、森田秀和、時田健二、勝野達郎、齋藤康、鈴木康夫	食道病変を合併した重症潰瘍性大腸炎の一例.	第281回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2004年9月25日
吉村直樹、鈴木康夫、畠山一樹、磯野貴史、布留川潔、森田秀和、徳政敦子、時田健二、勝野達郎、齋藤康	重症潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着除去療法の検討.		福岡	2004年10月23日
細江伸央、古川崇子、高田伸夫、山崎康朗、鈴木康夫、高橋牧子、立原敬一	若年者潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着除去療法の適応.	第5回千葉急性血液浄化研究会	千葉	2004年5月1日
Becker C, Fantini MC, Schramm C, Lehr HA, Burg S, Blessing M, Strand D, Galle PR, Ito H, Nishimoto N, Yoshizaki K, Kishimoto T, Rose-John S, Neurath MF	TGF-beta Suppresses Tumor Progression in Th2 Colitis and Associated Colon Cancer by Inhibition of IL-6 Trans-Signaling.	DDW2004	New Orleans	2004年5月18日
伊藤裕章	Treatment of Crohn's Disease with Anti-IL-6 Receptor Antibody.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月23日
伊藤裕章	Anti-IL-6 Receptor Antibody Therapy for Crohn's Disease.	第32回日本臨床免疫学会総会	東京	2004年10月9日

Horie Y, Kataoka E, Iizuka M, Enomoto K, Watanabe S, T W Mak, Nakano T, Suzuki A	Hepatocyte-specific PTEN deficiency results in steatohepatitis and hepatocellular carcinoma, and insulin hypersensitivity.	The American Association for the Study of Liver Disease (AASLD) 55th Annual Meeting	Boston	2004年10月29日
Konno S, Iizuka M, Sasaki K, Sato A, Horie Y, Watanabe S	Novel evidence suggesting Clostridium difficile is actually present in human gut flora more frequently than previously suspected.	DDW 2004	New Orleans	2004年5月18日
Sato A, Iizuka M, Nakagomi O, Horie Y, Konno S, Sasaki K, Watanabe S	Rotavirus double-stranded RNA diminishes wound repair in intestinal epithelial cells.	DDW 2004	New Orleans	2004年5月19日
金野志穂、飯塚政弘、佐々木健治、佐藤亜紀子、堀江泰夫、渡辺純夫	炎症性腸疾患の腸管外合併症に関する検討.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月21日
堀江泰夫、片岡英、大嶋重敏、飯塚政弘、金野志穂、佐々木健治、佐藤亜紀子、渡辺純夫	肝臓における癌抑制遺伝子Ptenの機能解析.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月23日
飯塚政弘、佐々木健治、佐藤亜紀子、金野志穂、進藤健一、堀江泰夫、渡辺純夫	潰瘍性大腸炎難治例に対する新たな治療とその効果.	第46回日本消化器病学会大会	福岡	2004年10月22日
佐々木健治、飯塚政弘、金野志穂、佐藤亜紀子、進藤健一、堀江泰夫、渡辺純夫	小腸上皮創傷修復におけるエカベトナトリウムの効果.	第46回日本消化器病学会大会	福岡	2004年10月21日
佐藤亜紀子、飯塚政弘、佐々木健治、金野志穂、進藤健一、堀江泰夫、渡辺純夫	小腸上皮細胞創傷修復におけるロタウイルス二本鎖RNAの作用.	第46回日本消化器病学会大会	福岡	2004年10月21日
飯塚政弘、佐々木健治、金野志穂、佐々木健治、佐藤亜紀子、堀江泰夫、渡辺純夫	Toll like receptorリガンド刺激による小腸上皮細胞反応性の検討.	第41回日本消化器免疫学会総会	天津	2004年7月15日

姉崎有美子、飯塚政弘、佐藤亜紀子、金野志穂、佐々木健治、堀江泰夫、草野智之、柴田聡、伊藤正直、渡辺 純夫	大量出血をきたしたCrohn病の1例.	第176回日本消化器病学会東北支部例会	仙台	2004年2月7日
山田育弘、飯塚政弘、佐藤亜紀子、佐々木健治、進藤健一、相良志穂、堀江泰夫、渡辺 純夫	ペンタサ注腸が著効した難治性潰瘍性大腸炎の1例.	第177回日本消化器病学会東北支部例会	山形	2004年7月9日
堀江泰夫、片岡英、佐々木雄彦、濱田浩一、佐々木純子、水野克典、岸本恕征、飯塚政弘、榎本克彦、渡辺純夫、仲野徹、鈴木 聡	PTENによる非アルコール性脂肪性肝炎と肝癌発症の制御.	第63回日本癌学会学術総会	福岡	2004年9月29日
畠山勝義	潰瘍性大腸炎に対するW型回腸囊肛門吻合術.	第104回日本外科学会定期学術集会	大阪	2004年4月9日
飯合恒夫、岩谷昭、高久秀哉、島田能史、谷達夫、岡本春彦、畠山勝義	潰瘍性大腸炎に対する回腸囊肛門吻合術の短期および長期合併症.	第104回日本外科学会定期学術集会	大阪	2004年4月7日
飯合恒夫、岩谷昭、谷 達夫、岡本春彦、畠山勝義	潰瘍性大腸炎に対する手術適応とそのタイミング.	第59回日本消化器外科学会定期学術総会	鹿児島	2004年7月22日
野上 仁、谷達夫、飯合恒夫、岡本春彦、畠山勝義	当科における瘻孔を合併したクローン病症例の検討.	第59回日本消化器外科学会定期学術総会	鹿児島	2004年7月22日
飯合恒夫、谷達夫、野上仁、岡本春彦、畠山勝義	潰瘍性大腸炎再燃に伴い脳梗塞を併発し大量出血にて緊急手術を施行した1例.	潰瘍病態研究会 第13回 フォーラム	東京	2004年8月28日
飯合恒夫、野上仁、清水大喜、高橋 聡、小林康雄、須田和敬、桑原明史、谷 達夫、岡本春彦、畠山勝義	栄養療法は有効か？.	第1回日本在宅静脈経腸栄養研究会	新潟	2004年9月25日
谷 達夫、岡本春彦、飯合恒夫、小林康雄、野上 仁、下山雅朗、桑原明史、畠山勝義	脳梗塞を発症した若年者潰瘍性大腸炎の2症例.	第66回日本臨床外科学会総会	盛岡	2004年10月13日

飯合恒夫、谷達夫、桑原明史、下山雅朗、岡本春彦、畠山勝義	オムニトラクトを用いた小開腹法による潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘、回腸囊肛門吻合術.	第66回日本臨床外科学会総会	盛岡	2004年10月15日
岩谷 昭、飯合恒夫、畠山勝義	回腸囊炎における便中細菌叢の検討及びprobioticsの効果.	第46回日本消化器病学会大会	福岡	2004年10月24日
野上 仁、飯合恒夫、桑原明史、下山雅朗、谷 達夫、岡本春彦、畠山勝義	潰瘍性大腸炎の経過中に脳梗塞を合併した1手術例.	第59回日本大腸肛門病学会総会	久留米	2004年11月6日
飯合恒夫、谷達夫、岡本春彦、畠山勝義	重篤なウイルス感染症が疑われ治療に難渋した潰瘍性大腸炎の2例（インターネット討論）.	第17回日本外科感染症学会総会	長岡	2004年12月1日
Ikeuchi H, Nakano H, Uchino M, Nakamura M, Noda M, Yanagi H, Yamamura T	Effects of nutritional therapy on surgical treatment in Crohn's disease.	19th ISDS	Yokohama	2008年12月10日
Ikeuchi H, Nakano H, Uchino M, Nakamura M, Noda M, Yanagi H, Yamamura T	Comparison of restrative proctocolectomy with and without diverting ileostomy in ulcerative colitis.	19th ISDS	Yokohama	2008年12月12日
Uchino M, Ikeuchi H, Nakano H, Noda M, Yanagi H, Yamamura T	Pouchitis in Japanese patients.	19th ISDS	Yokohama	2008年12月12日
中埜廣樹、池内浩基、内野基、中村光宏、野田雅史、柳秀憲、山村武平	難治性回腸囊炎の1例.	第72回日本消化器内視鏡学会近畿地方会	奈良	2008年3月7日
内野 基、池内浩基、中埜廣樹、野田雅史、柳 秀憲、山村武平	結腸全摘術後、残存直腸出血にて緊急手術を要したステロイド不応性慢性持続型潰瘍性大腸炎の1例.	第40回日本腹部救急医学会総会	東京	2008年3月19日
中埜廣樹、池内浩基、内野基、中村光宏、野田雅史、柳秀憲、山村武平	クローン病の術後に腸重積を認めた1例.	第40回日本腹部救急医学会総会	東京	2008年3月20日
池内浩基、中埜廣樹、内野基、中村光宏、野田雅史、柳秀憲、山村武平	潰瘍性大腸炎に対する1期的J型回腸囊肛門吻合術は安全か.	第104回日本外科学会定期学術集会	大阪	2008年4月8日
池内浩基、中埜廣樹、山村武平	潰瘍性大腸炎手術症例の腸管外合併症とステロイドの副作用.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2008年4月23日

内野 基、池内浩基、中村光宏、中埜廣樹、野田雅史、柳秀憲、山村武平	大腸癌を合併した潰瘍性大腸炎30症例の検討.	第59回日本消化器外科学会定期学術総会	鹿児島	2008年7月23日
池内浩基、中埜廣樹、内野 基、中村光宏、野田雅史、柳秀憲、山村武平	重症潰瘍性大腸炎に対する緊急手術症例の検討.	第59回日本消化器外科学会定期学術総会	鹿児島	2008年7月24日
長田勇氣、内野 基、池内浩基、野田雅史、柳秀憲、山村武平	結腸十二指腸瘻を形成した、クローン病の1例および自験例8例の検討.	第81回日本消化器病学会近畿支部例会	京都	2008年9月12日
坂東俊宏、中埜廣樹、池内浩基、内野 基、中村光宏、大嶋勉、外賀 真、中尾宏司、野田雅史、柳秀憲、山村武平	肝外門脈閉塞症を合併した潰瘍性大腸炎の一例.	第73回日本消化器内視鏡学会近畿地方会	大阪	2008年9月19日
中村光宏、池内浩基、中埜廣樹、内野 基、野田雅史、柳秀憲、山村武平	潰瘍性大腸炎患者の総ステロイド量と副作用の検討.	第66回日本臨床外科学会総会	盛岡	2008年10月15日
池内浩基、中埜廣樹、内野 基、中村光宏、中尾宏司、大嶋勉、野田雅史、柳秀憲、山村武平	潰瘍性大腸炎に対する1期的J型回腸囊肛門吻合術の周術期管理と術後経過.	第66回日本臨床外科学会総会	盛岡	2008年10月16日
中埜廣樹、池内浩基、内野 基、中村光宏、中尾宏司、大嶋勉、野田雅史、柳秀憲、山村武平	クローン病多数回手術症例と吸収障害.	第66回日本臨床外科学会総会	盛岡	2008年10月16日
池内浩基、中埜廣樹、内野 基、中村光宏、野田雅史、柳秀憲、山村武平	潰瘍性大腸炎に対する術式の変遷：3期分割手術から1期的手術へ.	第59回日本大腸肛門病学会総会	久留米	2008年11月6日
内野 基、池内浩基、中村光宏、中埜廣樹、野田雅史、柳秀憲、山村武平	J型回腸囊肛門吻合術における、術後 pouch failure症例の検討.	第59回日本大腸肛門病学会総会	久留米	2008年11月7日
広瀬 慧、内野 基、池内浩基、中埜廣樹、野田雅史、柳秀憲、山村武平	潰瘍性大腸炎、クローン病の鑑別に苦渋した1例.	第59回日本大腸肛門病学会総会	久留米	2008年11月7日

Hashimoto T, Itabashi M, Kameoka S, Izyka B, Shiratori K	Surgical timing and problems in cases with crohn's disease complicated with abscess formation.	XXth Biennial Congress of the ISUCRS	Budapest, Hungary	2004年6月8日
Hirosawa T, Itabashi M, Hashimoto T, Ogawa S, Kameoka S, Hamano K	Laparoscopic procedure for crohn's disease of sigmoid colon-vesicle fistula.	XXth Biennial Congress of the ISUCRS	Budapest, Hungary	2004年6月9日
Itabashi M, Hashimoto T, Hirosawa T, Ogawa S, Saito N, Aratake K, Seshimo A, Shirotani N, Kameoka S, Hamano K	Hand-assisted laparoscopic surgery (HALS) for colorectal diseases.	XXth Biennial Congress of the ISUCRS	Budapest, Hungary	2004年6月8日
Itabashi M, Hashimoto T, Hirosawa T, Ogawa S, Kameoka S,	Laparoscopic surgery for ulcerative colitis.	19th ISDS	Yokohama, Japan	2004年12月11日
田口あゆみ、板橋道朗、小川真平、廣澤知一郎、吉邑由佳、成田徹、亀岡信悟	腸腰筋膿瘍を合併した潰瘍性大腸炎の一例。	第29回日本外科系連合学会学術集会	東京	2004年7月2日
板橋道朗、橋本拓造、廣澤知一郎、小川真平、亀岡信悟	クローン病術後再発危険因子とfollow upの留意点。	第59回日本消化器外科学会定期学術集会	鹿児島	2004年7月22日
板橋道朗、橋本拓造、廣澤知一郎、小川真平、亀岡信悟	潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡下手術とその適応。	第13回潰瘍病態研究会	東京	2004年8月28日
板橋道朗、橋本拓造、廣澤知一郎、小川真平、亀岡信悟、飯塚文瑛、白鳥敬子	潰瘍性大腸炎癌化例に対する外科治療。	第66回日本臨床外科学会総会	盛岡	2004年10月15日
山田暁輝、板橋道朗、亀岡信悟	潰瘍性大腸炎術後に多発関節炎を呈した一例。	第1回日本炎症性腸疾患研究会	東京	2004年12月4日
板橋道朗、亀岡信悟	潰瘍性大腸炎手術におけるsurgical site infection.	第1回日本炎症性腸疾患研究会	東京	2004年12月4日
亀岡信悟、板橋道朗、小川真平、廣澤知一郎、橋本拓造	「臨床と病理の接点における問題-IBD cancer」-外科治療。	第1回日本消化管学会総会	名古屋	2005年1月28日
末永きよみ、宮田愛子、高橋俊子、板橋道朗、亀岡信悟	潰瘍性大腸炎手術におけるストーマ造設術後の術野感染症がストーマケアにあたえる影響についての検討。	第22回日本ストーマリハビリテーション学会総会	高知	2005年2月5日
田村和朗、嵯峨山健、山村武平	潰瘍性大腸炎合併大腸癌のCDKN2A異常およびミスマッチ修復機構異常とその意義。	第104回日本外科学会定期学術集会	大阪	2004年4月1日



大谷剛正、佐藤武郎、小澤平太、中村隆俊、根本一彦、國場幸均、井原厚、佐藤光史、渡邊昌彦	潰瘍性大腸炎の手術適応と手術タイミングおよび術式の検討.	第59回日本消化器外科学会総会パネルディスカッション	鹿児島	2004年7月23日
Takagi T, Naito Y, Katada K, Isozaiki Y, Kuroda M, Tsuboi H, Okuda T, Kokura S, Ichikawa H, Yoshida N, Yoshikawa T	ONO4817, an orally active matrix metalloprotease inhibitor, prevents dextran sulfate sodium induced colitis in mice.	DGS	Awaji, Japan	2004年3月27日
Naito Y, Takagi T, Katada K, Isozaiki Y, Kuroda M, Okuda T, Tsuboi H, Kokura S, Ichikawa H, Yoshida N, Okanoue T, Yoshikawa T	Interaction between carbon monoxide and nitric oxide in the intestinal mucosa of dextran sulfate sodium-treated mice.	DDW 2004	New Orleans	2004年5月18日
Takagi T, Naito Y, Katada K, Isozaiki Y, Kuroda M, Tsuboi H, Okuda T, Kokura S, Ichikawa H, Yoshida N, Yoshikawa T	Heme oxygenase regulates the balance of inflammatory cytokines in dextran sodium sulfate-induced colitis.	DDW 2004	New Orleans	2004年5月18日
Y. Naito, T. Takagi, H. Tsuboi, K. katada, Y. Isozaiki, M. Kuroda, T. Okuda, S. Kokura, H. Ichikawa, N. Yoshida, T. Yoshikawa	The role of gaseous monoxides in dextran sodium sulfate-induced colitis.	The 3rd international nitric oxide conference	Nara, Japan	2004年5月25日
T. Takagi, Y. Naito, H. Ichikawa, N. Tomatsuri, K. katada, Y. Isozaiki, M. Kuroda, T. Okuda, S. Kokura, N. Yoshida, T. Yoshikawa	A Selective Inducible Nitric Oxide Inhibitor, ONO-1714, Reduces Intestinal Ischemia-Reperfusion Injury in Rats.	The 3rd international nitric oxide conference	Nara, Japan	2004年5月25日

T. Takagi, Y. Naito, K. katada, Y. Isozaiki, M. Kuroda, H. Tsuboi, T. Okuda, S. Kokura, H. Ichikawa, N. Yoshida, T. Yoshikawa	The role of heme oxygenase on the balance of inflammatory cytokines in dextran sodium sulfate-induced colitis.	2004APS Transitional research confernce	Aspen, Colorado	2004年9月8日
H. Tsuboi, Y. Naito, T. Takagi, K. katada, Y. Isozaiki, M. Kuroda, T. Okuda, S. Kokura, H. Ichikawa, N. Yoshida, T. Yoshikawa	Carbon monoxide gas measurements; application to human and rodents.	2004APS Transitional research confernce	Aspen, Colorado	2004年9月8日
Y. Naito, T. Takagi, H. Tsuboi, K. katada, Y. Isozaiki, M. Kuroda, T. Okuda, S. Kokura, H. Ichikawa, N. Yoshida, T. Yoshikawa	Gaseous monoxides in dextran sodium sulfate-induced colitis.	2004APS Transitional research confernce	Aspen, Colorado	2004年9月10日
高木智久、内藤裕二、坪井寿人	大腸内一酸化窒素ガス測定の基礎的検討とその臨床的意義.	第80回日本消化器病学会近畿支部例会(シンポジウム)	大阪	2004年2月21日
高木智久、内藤裕二、堅田和弘、磯崎豊、黒田雅昭、古倉聡、市川寛、吉田憲正、吉川敏一	Heme oxygenase-1はDextran Sodium Sulfate腸炎における炎症性サイトカインバランスを制御する.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月21日
坪井寿人、内藤裕二、高木智久、堅田和弘、磯崎豊、黒田雅昭、古倉聡、市川寛、吉田憲正、吉川敏一	Dextran Sodium Sulfate腸炎と腸管内一酸化窒素ガス.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月21日
高木智久、内藤裕二、堅田和弘、磯崎豊、黒田雅昭、古倉聡、市川寛、吉田憲正、吉川敏一	Dextran Sodium Sulfate腸炎におけるHemoxygenase-1の役割-第2報-	第26回日本フリーラジカル学会(奨励賞)	山形	2004年6月24日

高木智久、内藤裕二、堅田和弘、磯崎豊、黒田雅昭、古倉聡、市川寛、吉田憲正、吉川敏一	ガス状メディエーター—酸化窒素(NO)、一酸化炭素(CO)-を標的分子とした炎症性腸疾患病態制御の可能性.	第41回日本消化器免疫学会総会(シンポジウム)	大津	2004年7月16日
高木智久、内藤裕二、堅田和弘、磯崎豊、黒田雅昭、古倉聡、市川寛、吉田憲正、吉川敏一	マウスDextran Sodium Sulfate腸炎におけるガス状メディエーターの役割.	第46回日本消化器病学会大会(DDW)	福岡	2004年10月22日
高木智久、内藤裕二、堅田和弘、磯崎豊、黒田雅昭、古倉聡、市川寛、吉田憲正、吉川敏一	腸炎治癒過程におけるHemoxygenase-1(HO-1)の役割に関する検討.	第32回日本実験潰瘍学会	大津	2004年11月20日
工藤進英	箱根pit patternシンポジウムの結果報告—V型の箱根合意について—.	第14回大腸Ⅱc研究会	横浜	2004年9月19日
工藤進英	Colitic cancerの内視鏡診断と治療.	DDW 2004シンポジウム8	福岡	2004年10月22日
Kudo S	The Chromo and magnifying endoscopy.	International Workshop on Diagnostic and Operative Digestive Endoscopy	Messina, Italy	2004年11月4日
Kudo S	Growing Patterns of Colonic Cancers : ADENOMA-CARCINOMA SEQUENCE AND DENOVO.	International Workshop on Diagnostic and Operative Digestive Endoscopy	Messina, Italy	2004年11月6日
Kudo S	Flat and depressed lesion.	1st AGA/JSGE joint meeting <Endoscopic Imaging and Therapt:at the Cutting Edge>	Washington	2004年12月2日
Futami k, Kawahara K, Higashi D, Seki K, Arima S	Long-term follow-up of Strictureplasty for Obstructive Crohn's Disease.	XXth ISUCRS	Budapest	2004年6月6日
Futami k, Arima S	Role of Strictureplasty in Surgical Treatment of Crohn's Disease.	第90回日本消化器病学会	仙台	2004年4月21日
二見喜太郎、河原一雅、東大二郎、紙谷孝則、関克典、永川祐二、高山成吉、平野憲二、田村智章、有馬純孝	内科的治療の変遷からみた潰瘍性大腸炎手術症例の検討.	第59回日本消化器外科学会	鹿児島	2004年7月21日

二見喜太郎、東大二郎、河原一雅、紙谷孝則、関克典、永川祐二、平野憲二、田村智章、田中千晶、有馬純孝	長期経過からみたクローン病に対する Strictureplastyの有用性.	第59回日本大腸肛門病学会	久留米	2004年11月5日
平野憲二、二見喜太郎、徳永真和、東大二郎、河原一雅、紙谷孝則、関克典、永川祐二、田村智章、田中千晶、有馬純孝	手術を要した虚血性大腸炎7例の検討.	第60回日本大腸肛門病学会	久留米	2004年11月6日
田村智章、東大二郎、二見喜太郎、有馬純孝、頼岡誠、松井敏幸、八尾恒良	クローン病痔瘻病変に対するインフリキシマブ製剤の使用経験.	第61回日本大腸肛門病学会	久留米	2004年11月7日
二見喜太郎	CD肛門病変の外科治療.	第1回日本炎症性腸疾患研究会	東京	2004年12月5日
東大二郎、二見喜太郎、有馬純孝	Crohn病尿路生殖器瘻孔に対する外科治療.	第2回日本炎症性腸疾患研究会	東京	2004年12月6日
Matsuura M, Okazaki K, Tabata Y, Ohana M, Uchida K, Chiba T	Therapeutic Effects of Basic Fibroblast Growth Factor in Dextran Sulfate Sodium-Induced Murine Colitis.	Gastroenterology	New Orleans, LA	2004年6月26日
Kawasaki K, Okazaki K, Tamaki H, Matsuura M, Chiba T	Overexpression of Thioredoxin-1 in Transgenic Mice Prevents Helicobacter felis Induced Gastritis	Gastroenterology	New Orleans, LA	2004年6月26日
Nakase H, Okazaki K, Chiba T	Novel Specific Antibodies Against Insertion Element 900 of Mycobacterium Paratuberculosis in Japanese Patients with Crohn's Diseases .	Gastroenterology	New Orleans, LA	2004年6月27日
Matsuura M, Nishio A, Kawanami C, Nakase H, Tamai H, Asada M, Kawasaki K, Fukui T, Yoshizawa H, Ohashi S, Inoue S, Kiriya K, Kitamura H, Okazaki K	Clinical Significance of Magnifying Endoscopy in the Remission Stage of Ulcerative Colitis.	Gastroenterology	New Orleans, LA	2004年6月27日

Fukui T, Nishio A, Kitamura H, Inoue S, Kiriya K, Ohashi S, Yoshizawa H, Asada M, Matsuura M, Kawasaki K, Tamai H, Nakase H, Okazaki K, Chiba T	Gastric Mucosal Hyperplasia via Upregulation of Gastrin Induced by Chronic Activation of Gastric Innate Immunity.	Gastroenterology	New Orleans, LA	2004年6月27日
Matsuzaki M, Yamagata H, Mori S, Yoshida K, Tahashi Y, Furukawa F, Watanabe T, Seki T and Okazaki K	Acceleration of Smad2 and Smad3 Phosphorylation via JNK-Pathway in Human Colorectal Adenoma-Carcinoma sequence.	Colloquium for the Study of Gastrointestinal Defense System (日本消化器免疫学会国際サテライトシンポジウム)		2004年6月27日
Nishio A, Tamaki H, Nakamura H, Yodoi J, Okazaki K, Chiba T	Sulfate Sodium-Induced Murine Colitis.	Colloquium for the Study of Gastrointestinal Defense System (日本消化器免疫学会国際サテライトシンポジウム)		2004年6月27日
河南知晴、八隈秀二郎、岡崎和	当院で経験した原発性硬化性胆管炎症例における大腸・膵疾患の合併.	第90回日本消化器病学会総会	仙台	2004年4月21日
松浦 稔、千葉勉、岡崎 和一	basic FGFによる粘膜再生を治療戦略とした炎症性腸疾患の治療法の基礎的検討 (消化器病学会・消化器吸収学会合同: シンポジウム-炎症性腸疾患治療の新しい展開-)	DDW-J		2004年6月27日
玉置敬之、中村肇、西尾彰効、岡崎和一、千葉勉、淀井淳司	Thioredoxin-1 (TRX) 投与は炎症性腸疾患の分子標的治療の一つになりうるか.	第41回日本消化器免疫学会総会.	天津	2004年7月16日
松下光伸、高鉾博、岡崎和一	潰瘍性大腸炎における虫垂粘膜リンパ球サブセットの解析.	第41回日本消化器免疫学会総会.	天津	2004年7月17日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
Inoue N Yoshizawa S Matsuoka K Takaishi H Ogata H Iwao Y Mukai M Fujita T Kawakami Y Hibi T	Serum p53 antibodies in patients with ulcerative colitis are associated with the development of colorectal neoplasia.	The 70th Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology	Honolulu HI	2004年10月30日 -11月2日
Sato T Sakuraba A Inoue N Hibi T	Dysregulated immune response in mesenteric lymph nodes of Crohn's disease.	The 70th Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology	Honolulu HI	2004年10月30日 -11月2日
Morohoshi Y Matsuoka K Hisamatsu T Okamoto S Hibi T	Inhibition of neutrophil elastase prevents the development of murine dextran sulfate sodium-induced colitis.	The 70th Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology	Honolulu HI	2004年10月30日 -11月2日
Ogata H Kumai K Imaeda H Aiura K Hisamatsu T Okamoto S Iwao Y Sugino Y Kitajima M Hibi T	The experience of a newly-developed capsule endoscope.	World Congress of Gastroenterology 2005	Canada	2005年9月10-14日
Ogata H Matsui T Nakamura M Iida M Takazoe M Suzuki Y and Hibi T	#489 Remission-Induction and Steroid-Sparing Efficacy By Oral Tacrolimus (FK506) Therapy Against Refractory Ulcerative Colitis.	DDW 2005	CHICAGO	2005年5月14-19日
Kamada N Inoue N Hirayama K Itoh K Yamada T Suzuki T and Hibi T	Breakdown of the Intestinal Bacterial Balance Increases the Susceptibility To Intestinal Inflammatory Stimuli.	DDW 2005	CHICAGO	2005年5月14-19日
Yoshizawa S Inoue N Matsuoka K Ogata H Iwao Y Fujita T Kawakami Y and Hibi T	Clinical Importance of Serum p53 Antibodies in Surveillance Program for Colorectal Cancer in Patients With Ulcerative Colitis.	DDW 2005	CHICAGO	2005年5月14-19日
Kamada N Hisamatsu T Okamoto S Inoue N and Hibi T	Dysfunction of anti-inflammatory macrophages polarized by M-CSF causes Th1 bias upon the enteric bacteria stimuli in interleukin-10 deficient mice.	12th International Congress-From Fundamental Biology to Human Disease		

Sakuraba A Inoue N Kohgo Y Terano A Matsui T Suzuki Y and Hibi T	A Multicenter, randomized, controlled trial between weekly and semiweekly treatment with granulocyte and monocyte adsorption apheresis for active ulcerative colitis.	13th United European Gastroenterology Week	Copenhagen	2005年10月15-19日
鎌田信彦 井上 詠 日比紀文	マウスモデルを用いたプロバイオティクスNissle1917の腸炎抑制メカニズムの解明	第91回日本消化器病学会総会	東京	2005年4月14-16日
小林 拓 岩上祐子 久松理一 岡本 晋 今井俊夫 日比紀文	炎症性腸疾患におけるfractalkine/CX3CR1の役割	第91回日本消化器病学会総会	東京	2005年4月14-16日
佐藤俊朗 日比紀文	腸管上皮幹細胞の純化とその機能解析	第91回日本消化器病学会総会	東京	2005年4月14-16日
緒方晴彦 熊井浩一郎 日比紀文	当院における国産新型カプセル内視鏡の使用経験	第69回日本消化器内視鏡学会総会	東京	2005年5月26-28日
久松理一 緒方晴彦 日比紀文	難治性潰瘍性大腸炎に対するCsA持続静注療法による緩解導入率および累積手術率と内視鏡スコアの関係	第69回日本消化器内視鏡学会総会	東京	2005年5月26-28日
鎌田信彦 久松理一 岡本 晋 赤川清子 日比紀文	IL-10ノックアウトマウスにおける抑制性マクロファージの分化異常とIL-12過剰産生	第42回日本消化器免疫学会総会	東京	2005年8月4-5日
岩男 泰 松岡克善 日比紀文	colitic cancer の内視鏡所見とサーベイランスの実際	第70回日本消化器内視鏡学会総会	神戸	2005年10月5-8日
矢島知治 渡辺 守 日比紀文	ヒト同種骨髄移植後消化管粘膜におけるcell fusionの証明	第47回日本消化器病学会大会	神戸	2005年10月5-7日
桜庭 篤 井上 詠 日比紀文	潰瘍性大腸炎に対する顆粒球単球除去療法の新しい治療展開 ~従来法とのRandomized Control Study~	第47回日本消化器病学会大会	神戸	2005年10月5-7日
鎌田信彦 久松理一 岡本 晋 新井久美子 赤川清子 日比紀文	IL-10ノックアウトマウスにおける抑制性マクロファージの分化異常とTh 1誘導	第47回日本消化器病学会大会	神戸	2005年10月5-7日
芳沢茂雄 井上 詠 松岡克善 高石官均 岡本 晋 久松理一 緒方晴彦 岩男 泰 藤田知信 河上 裕 向井萬起男 日比紀文	潰瘍性大腸炎に合併する大腸癌の早期発見における抗p53抗体測定の有用性の検討	第47回日本消化器病学会大会	神戸	2005年10月5-7日
仲居貴明 佐藤俊朗 日比紀文	クローン病腸管局所におけるLXR・の発現と免疫調節作用についての検討	第33回日本潰瘍学会	東京	2005年12月2-3日

K shimmy Y ISHIGURO K YAMAGATA H FUJITA H SAKURABA H HIRAGA S EBINA A MUNAKATA	Transforming growth factor (TGF)- $\beta$ receptors were suppressed at the transcriptional levels in refractory cases with Ulcerative Colitis.	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston, USA	2005. 6. 25~30
S EBINA Y ISHIGURO H HIRAGA H SAKURABA K SHIMMY H FUJITA K YAMAGATA A MUNAKATA et al.	Streptococcus sanguis cell wall strongly induced IL-8 and TNF- $\alpha$ by PBMC from Behçet's disease patients through p38 and NF-(KAPPA)B.	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston, USA	2005. 6. 29
H HIRAGA Y ISHIGURO S EBINA K YAMAGATA H SAKURABA K SHIMAYA H FUJITA A MUNAKATA	Cyclosporine (CsA) ameliorated epithelial apoptosis through enhancing the transforming growth factor (TGF)- $\beta$ receptor expression.	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston, USA	2005. 6. 25~30
H FUJITA Y ISHIGURO K YAMAGATA S EBINA H SAKURABA K SHIMMY H HIRAGA A MUNAKATA	Cyclosporine (CsA) prevented DSS colitis through transforming growth factor (TGF)- $\beta$ relating signaling.	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston, USA	2005. 6. 25~31
K YAMAGATA Y ISHIGURO H SAKURABA H HIRAGA A MUNAKATA	Altered c-jun activation binding protein signaling in refractory cases with UC.	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston, USA	2005. 6. 25~32
Y ISHIGURO H HIRAGA K YAMAGATA H SAKURABA A MUNAKATA A NAKANE	The Submucosal Injection of Naked DNA Encoded by Cytokine-Induced Neutrophil Chemoattractant-1 Evokes Dendritic Cell Exhaustion and Ameliorates Th-1 Driven Colitis.	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston, USA	2005. 6. 25~33
H SAKURABA Y ISHIGURO K SHIMMY H HIRAGA K YAMAGATA S EBINA H FUJITA S FUKUDA A MUNAKATA	Expression of Multi Drug Resistance-1 Gene on Lamina Proprial T Cells from Glucocorticoids Refractory Cases with Ulcerative Colitis.	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston, USA	2005. 6. 25~34
Y ISHIGURO H HIRAGA H SAKURABA K YAMAGATA K SHIMAYA S EBINA H FUJITA A MUNAKATA D SAWAMURA	Pretreatment with Cytokine Induced Neutrophil Chemoattractant (CINC)-1 Prevents Th-1 Driven Colitis with Dendritic Cell (DC) Maturation and Expansion.	Inflammatory Bowel Disease - Research Drives Clinics	Muenster, Germany.	2005. 9. 2~3



K SHIMMY Y ISHIGURO H SAKURABA H HIRAGA K YAMAGATA S EBINA H FUJITA S FUKUDA A MUNAKATA	Expression of Multi Drug Resistance-1 Gene on Lamina Proprial T Cells from Glucocorticoids Refractory Cases with Ulcerative Colitis.	Inflammatory Bowel Disease - Research Drives Clinics	Muenster, Germany.	2005. 9. 2~4
山形和史 石黒 陽 棟方昭博	当科における直腸炎型潰瘍性大腸炎の診断と治療の現況	第23回日本大腸検査学会総会	名古屋	17. 11. 12
石黒 陽 山形和史 山口公平 福田眞作 棟方昭博	潰瘍性大腸炎難治例の緩解維持療法—当科における6-MPの治療成績—	第179回日本消化器病学会東北支部例会	盛岡	17. 7. 15
山形和史 石黒 陽 蝦名佐都子 島谷孝司 福田眞作 棟方昭博	Infliximab反復投与によりQOLが得られたCrohn病の1例	第47回日本消化器病学会大会	神戸	17. 10. 6
蝦名佐都子 石黒 陽 山形和史 櫻庭裕丈 藤田 均 平賀寛人 島谷孝司 棟方昭博 中根明夫	ベーチェット病 (BD) 患者末梢血単核球におけるStreptococcus sanguisの cell wallに対する反応性に関する研究	第47回日本消化器病学会大会	神戸	17. 10. 6
菊池英純 伊東重豪 福田眞作 田中正則 棟方昭博	CCR5特異的低分子ケモカインレセプター阻害剤 (TAK-779) のDSS誘発腸炎に対する効果	第47回日本消化器病学会大会	神戸	17. 10. 6
櫻庭裕丈 石黒 陽 山形和史 藤田 均 平賀寛人 蝦名佐都子 島谷孝司 棟方昭博	潰瘍性大腸炎の腸管粘膜固有層単核球における多剤耐性遺伝子の発現の検討	第42回日本消化器免疫学会総会	東京	17. 8. 4~5
松井敏幸	IBDの内視鏡診断と治療	第29回日本消化器内視鏡学会セミナー	東京	2005. 5. 28~29
松井敏幸 日比紀文	難治性潰瘍性大腸炎 (UC) に対するFK506の3ヶ月投与時における緩解導入効果	第47回日本消化器病学会大会 (DDW-Japan 2005)	神戸	2005. 10. 5~8
松井敏幸 宗 祐人 平井郁仁	炎症性腸疾患治療の標準化とその問題点	第60回日本大腸肛門病学会	東京	2005. 5. 28~29
和田陽子 平井郁仁 松井敏幸	内視鏡像からみたサイトメガロウイルス感染合併潰瘍性大腸炎に対する抗ウイルス剤の治療効果	第23回日本大腸検査学会	名古屋	2005. 11. 12~13
平井郁仁 松井敏幸	炎症性腸疾患の診断困難例についての検討—Indeterminate colitisの臨床像を中心に—	第2回日本消化管学会	東京	2006. 02. 11~12

H Nakase Y Tabata T Chiba	The Novel Effect of oral drug delivery system targeting M cells and GALT on experimental intestinal inflammation : A New Therapeutic Strategy for Inflammatory Bowel Disease.	Inflammatory Bowel Disease Research Drives Clinics	Münster, Germany	2005. 9. 3
H Nakase S Inoue H Tamaki M Matsuura A Nishio T Chiba	Long-Term outcome of treatment with tacrolimus therapy in patients with inflammatory bowel disease.	Asian Pacific Digestive Week 2005	Seoul, Korea	2005. 9. 25
H Tamaki H Nakase S Ueno N Uza H Kitamura S Inoue M Asada M Matsuura K Okazaki T Chiba	The first demonstration of the infectivity and immunological response of mycobacterium paratuberculosis in human monocyte cell and novel specific antibodies against insertion element 900 in patients with crohn's disease.	13th United European Gastroenterology Week	Copenhagen, Denmark	2005. 10. 15
H Nakase H Tamaki S Inoue M Matsuura A Nishio T Chiba	Long-term outcome of treatment with tacrolimus therapy in japanese patients with inflammatory bowel disease.	13th United European Gastroenterology Week	Copenhagen, Denmark	2005. 10. 15
井上聡子 仲瀬裕志 西尾彰功 千葉 勉	クローン病におけるクラリスロマイシン治療の有効性の検討	第102回日本内科学会講演会	大阪国際会議場 (大阪)	2005. 4. 7
玉置敬之 仲瀬裕志 千葉 勉	難治性クローン病12例に対する Tacrolimusの有効性の検討	第102回日本内科学会講演会	大阪国際会議場 (大阪)	2005. 4. 7
井上聡子 仲瀬裕志 上野 哲 宇座徳光 北村 浩 浅田全範 玉置敬之 松浦 稔 西尾彰功 千葉 勉	潰瘍性大腸炎に対するFK506の緩解導入および維持効果の検討	第91回日本消化器病学会総会	東京国際フォーラム (東京)	2005. 4. 14
玉置敬之 仲瀬裕志 岡崎和一 松浦 稔	クローン病に対する治療として Mycobacterium paratuberculosisは標的となりうるか?	第91回日本消化器病学会総会	東京国際フォーラム (東京)	2005. 4. 14
松浦 稔	色素拡大内視鏡観察と転写因子の発現からみた潰瘍性大腸炎緩解期における再生粘膜の評価	第69回日本消化器内視鏡学会総会・パネルディスカッション	ホテルニューオータニ東京 (東京)	2005. 5. 26
松浦 稔 仲瀬裕志 田畑泰彦 西尾彰功 岡崎和一 千葉 勉	炎症性腸疾患に対するbasic FGF注腸療法の基礎的検討	第42回日本臨床分子医学会学術集会	京大芝蘭会館 (京都)	2005. 7. 22
井上聡子 仲瀬裕志 西尾彰功 千葉 勉	炎症性腸疾患の炎症および上皮再生における転写因子NF-kBの重要性	第42回日本消化器免疫学会総会	京王プラザホテル (東京)	2005. 8. 7

玉置敬之 仲瀬裕志 西尾彰功 岡崎和一 千葉 勉	ヒト単球細胞におけるMycobacterium paratuberculosisの感染性およびクローン病患者における抗IS900血清抗体価の検討	第42回日本消化器免疫学会総会・シンポジウム	京王プラザホテル (東京)	2005. 8. 7
井上聡子 仲瀬裕志 千葉 勉	クローン病患者の骨量減少における脂溶性ビタミンの役割	第47回日本消化器病学会大会・シンポジウム	ポートピアホテル (神戸)	2005. 10. 5
仲瀬裕志 千葉 勉	QOLの観点からみた難治性炎症性腸疾患治療における免疫抑制剤治療の意義	第47回日本消化器病学会大会・パネルディスカッション	ポートピアホテル (神戸)	2005. 10. 5
上野 哲 仲瀬裕志 宇座徳光 井上聡子 北村 浩 浅田全範 玉置敬之 松浦 稔 千葉 勉	潰瘍性大腸炎におけるPCR法を用いたCMV感染合併の診断の有用性	第47回日本消化器病学会大会	ポートピアホテル (神戸)	2005. 10. 5
宇座徳光 仲瀬裕志 千葉 勉	難治性瘻孔を合併するクローン病に対する免疫抑制剤を中心とした治療戦略	第75回日本消化器内視鏡学会近畿地方会・シンポジウム	大阪国際交流センター (大阪)	2005. 10. 29
笠原勝宏 仲瀬裕志 千葉 勉	難治性潰瘍性大腸炎治療におけるタクロリムスの位置付け	第84回日本消化器病学会近畿支部例会・シンポジウム	神戸国際会議場 (神戸)	2006. 2. 25
杉田 昭	潰瘍性大腸炎に対するdouble stapling technique (DST) を用いた一期的J型回腸囊肛門管吻合術の成績	第1回日本消化管学会総会	名古屋	2005年1月28~29日
杉田 昭	潰瘍性大腸炎重症例に対する内科治療の効果からみた外科治療の位置づけ	第91回日本消化器病学会総会	東京	2005年4月14~16日
杉田 昭	Crohn病に対する大腸部分切除術の留意点—縫合不全の検討から—	第105回日本外科学会定期学術総会	名古屋	2005年5月11~13日
杉田 昭	炎症性腸疾患に対する外科治療の位置づけ	日本消化器病学会関東支部 第7回教育講演会	東京	37045
杉田 昭	潰瘍性大腸炎に対する回腸囊肛門管吻合術の合理性—回腸囊、肛門管の病理組織学的検討—	第60回日本消化器外科学会定期学術総会	東京	2005年7月20~22日
杉田 昭	潰瘍性大腸炎に対する回腸囊肛門管吻合術後QOLからみた有用性の検討	第47回日本消化器病学会大会 (DDW)	神戸	2005年10月5~7日
杉田 昭	潰瘍性大腸炎に対する外科治療の標準化—手術適応とJ型回腸囊肛門管吻合術の成績から—	第60回日本日本大腸肛門病学会総会	東京	2005年10月28~29日
杉田 昭	潰瘍性大腸炎に対するdouble stapling technique (DST) によるJ型回腸囊肛門管吻合術の有用性	第67回日本臨床外科学会総会	東京	2005年11月9~11日
Nagaike K Tanaka H Kohama K Fukushima T Naganuma S Uchiyama S Itoh H Kataoka H	Roles of integral membrane Kunitz-type serine proteinase inhibitor, HAI-1, in the invasive cell behavior.	96th Annual Meeting of American Association of Cancer Research	Anaheim, CA	2005年4月
Uchiyama S Itoh H Naganuma S Nagaike K Tanaka H Chijiwa K Kataoka H	Expression of hepatocyte growth factor activator inhibitor type-2 related small peptide (H2RSP) in human gastrointestinal tissues including adenoma-carcinoma sequence.	96th Annual Meeting of American Association of Cancer Research	Anaheim, CA	2005年4月
Osawa E Nakajima A Dohi T	Th2-type hapten-induced colitis enhances formation of azoxymethane-induced tumors.	Digestive Disease Week 2005	Chicago	2005 May 15

Kawamura YI Kawashima R Mizutani N Hirai K Toyama- Sorimachi N Dohi T	Introduction of a gene encoding a glycosyltransferase, which is exclusively expressed in normal gastrointestinal mucosa, efficiently inhibits metastasis of human gastrointestinal cancer cells.	Digestive Disease Week 2005	Chicago	2006 May 15
Dohi T Ejima C Kawamura YI Kawashima R Mizutani N Tabuchi Y Kojima I	Activin/follistatin system in the murine models for colitis.	Digestive Disease Week 2005	Chicago	2007 May 15
Kawashima R Kawamura YI Mizutani N Toyama- Sorimachi N Dohi T	IL-13 Receptor $\alpha 2$ Is Required For The Intestinal Epithelial Cell Regeneration.	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston	2005 June 27
Dohi T Osawa E Nakajima A	Th2-type, hapten-induced colitis enhances the formation of azoxymethane-induced tumors	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston	2006 June 27
Mizutani N Kawashima R Kawamura YI Imai T Toyama- Sorimachi N Dohi T	Fractalkine regulates the macrophage responses to lipopolysaccharide.	12th International Congress of Mucosal Immunology	Boston	2005 June 29
Dohi T Hoshino A Kawamura YI Yamamoto K	Intestinal immunity in surgical and inflammatory stress.	The 3rd Stage Surface Barrier Immunology Study Group (SBARIS) 2nd Meeting	Nago, Okinawa	2005 Nov 5
土肥多恵子	サイトカインバランス異常の消化管上皮再生・分化へのインパクト	第91回日本消化器病学会総会	東京	2005年4月15日
福島 剛 田中弘之 長池幸樹 長井美由紀 秋山 裕 伊藤浩史 片岡寛章	HAI-1 (hepatocyte growth factor activator inhibitor type 1) ノックアウトマウスの解析 (II) : HAI-1は胎盤のbranching morphogenesisに必須である	第94回日本病理学会総会	横浜	2005年4月
土肥多恵子	消化管の免疫異常と炎症の病態病理	和漢薬研究所特別セミナー「和漢薬と消化管」-消化管常在菌の役割および消化管疾患をめぐる最新の話	富山	2005年7月14日
河村由紀 川島 麗 反町典子 神奈木玲児 土肥多恵子	正常消化管粘膜に発現する $\beta 1, 4$ アセチルガラクトサミン転移酵素遺伝子の癌化に伴うエピジェネティックな発現抑制機構	第64回日本癌学会学術総会	札幌	2005年9月14日
内山周一郎 伊藤浩史 千々岩一男 片岡寛章	Adenoma-carcinoma sequenceを含めたヒト大腸組織におけるHAI-2 Related Small Peptide (H2RSP) の機能解析	第64回日本癌学会学術総会	札幌	2005年9月
Hoshino A Kawamura YI Yasuhara M Noriko T-S Dohi T	Aggregation of peritoneal macrophages via CCL1/CCR8 triggers inflammatory and postoperative adhesion.	The 18th Naito Conference	Kanagawa	2005 Oct 27
土肥多恵子	消化管疾患の病理と粘膜免疫異常	日本食品免疫学会	東京	2005年11月10日.